

日本史探究 第12回 授業の進め方とポイント

【第12回テーマとEQ】

なぜ江戸幕府は崩壊したのでしょうか？

～開国から明治維新へ～

【第12回の解説ポイント】

・18世紀以降続いていた外国船からの開国要求であったが、1853年のアメリカ合衆国ペリー艦隊の来航によって、交渉が本格化することになった。1854年の日米和親条約締結によって下田と函館の二港を開港することになり、200年以上続いたいわゆる鎖国政策は終わりを迎えることになった。

・その後、米国総領事ハリスと通商（貿易）に関する交渉がすすみ、1858年日米修好通商条約の締結によって、海外との自由貿易が開始されることになった。ただ、同条約は外国の領事裁判権を認める点や日本が関税自主権を失う点など日本にとって不平等条約であり、同じ内容の条約がオランダ・ロシア・イギリス・フランスとも結ばれたため安政の五カ国条約とよばれる。

・外国との自由貿易がはじまり国内の物資が不足するようになったため、急激な物価上昇が続いた。国内経済は混乱し人々の不満が高まったため、天皇を重んじ外国勢力を排除しようとする尊王攘夷運動が盛んになったが、大老井伊直弼はそれを弾圧し、桜田門外の変で暗殺された。

・井伊直弼暗殺の後、幕府は朝廷と幕府の融和をめざす公武合体政策をとって高まる尊王攘夷運動を抑えようとした。攘夷を強く主張した長州藩や薩摩藩は、四国艦隊下関砲撃事件や薩英戦争によって攘夷が不可能であることを知り、幕府に代わる天皇中心の国家体制を目指すようになった。

・第一五代将軍徳川慶喜は、長州藩・薩摩藩が軍事力による倒幕を実行する計画があることを知り、朝廷に政権を返上した（大政奉還）。しかし、長州藩や薩摩藩などは朝廷に対して幕府の廃止を主張し、朝廷は王政復古の大号令を発して天皇中心の政治をおこなうことを明らかにした。これにより江戸幕府は滅亡することになった。

【これまでに出された留学生からの質問】

・戊辰戦争の際に使われた「錦御旗（にしきのみはた）」とは何ですか。

→天皇が「朝敵」（朝廷・天皇の敵、戊辰戦争では旧幕府軍）の討伐を命令する場合に、軍

事的な指揮権を委任する意味で、与えられた旗のこと。「日之御旗」と「月之御旗」の二つで一組であった。